

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371300720		
法人名	有限会社 ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホーム みおつくし新守山	印	
訪問調査日	平成20年2月5日		
評価確定日	平成20年3月13日		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ	印	

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家 族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371300720
法人名	有限会社 ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム みおつくし新守山
所在地	名古屋市守山区新守西2032 (電話) 052-794-1746

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年3月13日

## 【情報提供票より】(平成19年12月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年12月21日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	10名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	71歳	最高	90歳
協力医療機関名	吉田内科眼科クリニック				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地にあり玄関には季節の花が置いてある。畑で野菜をつくったり、花の手入れを入居者と職員が一緒に行なっている。広い居間には自然の光が入り、大きな手作りカレンダーには日付と予定メモが貼られている。また、普段の様子や行事の写真が掲示されている。居室に入居者の安全を考え、畳を使用している人もいる。週1回、看護師の訪問があり24時間対応可能となっている。医師の往診は月2回行なっている。消防署の指導により、火災や防災訓練を実施しており、家族や地域の住民に参加の呼びかけを行なっている。職員は全員、救急救命の講習を受けている。また、外部研修や資格取得に積極的に取り組んでいる。日々の生活の中で入居者の希望に添い、個人対応にも応じている。「楽しく生活をしていただいているか」日々振り返り支援している。ボランティア、散歩時の挨拶やホーム行事への参加の呼びかけ、地域行事への参加と交流を図っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、家族や職員と話し合いがされよい方法が取られた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者より、自己評価について職員に詳しく説明され、一人ひとりに手渡し取り組んだ。難しい所は話し合い、一つひとつ項目を記入することにより、「より良いグループホームにするには」と改めて考え、確認することができたとの声があった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーは、町内会長、民生委員、家族代表、主治医になっており、2カ月に1回開催されている。会議では、活動報告や計画、意見交換がされている。会議の内容は職員に、カンファレンスなどで説明し、家族には電話や文書にして郵送で伝えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置しているが家族は来訪時に直接管理者や職員に話しをすることが多い。ホームの行事には家族にも参加してもらい家族同士の話し合いの機会を設けている。苦情相談機関としてホームの担当者以外に愛知県国民健康保険連合会、名古屋市健康福祉局介護指導課の連絡先を重要事項説明書に明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、今年は役員にもなっている。地域の夏祭りや子ども会の運動会、消防訓練に参加した。近所で火災があった時、近隣の方より避難の手助けを受けた。散歩時には近隣の方と挨拶を交わしたり、ホームへあそびに来てもらったり、高齢者の相談にのるなど、地域との交流が図られている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「きずな」に加え、ホーム独自の理念が作成されている。ごく普通の家庭生活の中で楽しく、明るく、毎日を暮らしていきたいと考えている。		地域密着型サービスとしての役割を理解しており、地域との関わりを大切に思い積極的に取り組んでいる。理念の内容にも地域との関わりについて織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰もが見やすいように玄関に掲示してあり、入居者と職員と一緒に書きあげた。「毎日明るく生き生きとした生活を送りましょう」を理念とし、入居者が楽しみを持ち、生活してもらえよう支援している。月1回のカンファレンスで職員は振り返り確認合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、今年は役員にもなっている。地域の夏祭りや子ども会の運動会、消防訓練に参加した。近所で火災があった時、近隣の方より避難の手助けを受けた。散歩時には近隣の方と挨拶を交わしたり、ホームへあそびに来てもらったり、高齢者の相談にのるなど、地域との交流が図られている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については、家族や職員と話し合いがされよい方法が取られた。管理者より、自己評価について職員に詳しく説明され、一人ひとりに手渡し取り組んだ。難しい所は話し合い、一つひとつ項目を記入することにより、「より良いグループホームにするには」と改めて考え、確認することができたとの声があった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、町内会長、民生委員、家族代表、主治医になっており、2カ月に1回開催されている。会議では、活動報告や計画、意見交換がされている。会議の内容は職員に、カンファレンスなどで説明し、家族には電話や文書にして郵送で伝えている。</p>		<p>職員に対して運営推進会議の報告を議事録の確認だけではなく、会議に参加することを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護係の担当者と一緒に病院や家庭に訪問し面談している。守山区役所より地域の行事案内が送付されている。また、ホームよりケアマネジャーが区役所を訪問し情報交換をしている。</p>		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に入居者の状況や様子について報告している。月1回手紙を書き、写真を同封し家族に送付している。入居者が家族に電話をする時にも報告している。その他にも入居者の状態に変化が生じた場合には電話連絡をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが家族は来訪時に直接管理者や職員に話しをすることが多い。ホームの行事には家族にも参加してもらい家族同士の話し合いの機会を設けている。苦情相談機関としてホームの担当者以外に愛知県国民健康保険連合会、名古屋市健康福祉局介護指導課の連絡先を重要事項説明書に明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は無く、各ユニットで職員は固定されている。行事などは1,2階合同で行い交流を図っている。スタッフルームがあり休憩時間が確保されている。また、新年会や忘年会などの親睦会も年何回か開催されており、職員のストレス軽減に向け取り組んでいる。職員の半数が常勤の体制をとっており、職員の離職により入居者にダメージがないよう、全職員が同じ対応ができるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修はホームより職員に情報を提供し、希望者があれば勤務変更など調整し研修に参加している。参加した職員は資料をホームに持ち帰り、カンファレンスで報告している。月1回、外部から講師を招き勉強会を実施している。また、資格取得にあたっては、管理者や職員全員が応援し協力できるよう環境や雰囲気づくりに努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会している。会議などには管理者が参加しており、職員が参加することはない。法人内のグループホームとは、行事の際に出かけ、入居者と職員と一緒に交流している。</p>		<p>職員が同業者との機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう、今後の取り組みに期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人や家族と面談を行い、本人が何を希望しているのか十分に話し合い、安心して入居してもらえるよう心がけている。ホームを見学してもらったり、1日ホームで過ごしてもらい雰囲気を味わってもらっている。入居後は、本人のできることを探し、一緒に楽しむ取り組みをしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で、調理や掃除、洗濯物干しなどを一緒に行なっている。春には庭に野菜などを植え、収穫を楽しみにしている。職員は入居者を人生の先輩として敬い、声かけに注意しながら昔のことや地方の慣わしなどを教えてもらっている。職員の元気がない時、「どうしたの？大丈夫」と優しい言葉を入居者にかけてもらったり、夜勤の時には、「頑張ってるね」と励ましてもらうこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者家族、本人との会話の中より希望や要望を把握している。入居後、日常生活の中で多面的に観察し申し送りやカンファレンスで話し合い、現状の把握に努めている。入居者より家族への電話、好きなこと(将棋、カラオケなど)を個別に対応している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のカンファレンスで入居者のできること、できないことなど、現状を職員から情報を得て介護計画の中に織り込んでいる。日常生活の中で入居者との会話から意向などを聞き取り、介護計画に反映させている。1週間に2度、訪問するケアマネジャーと一緒に現状を見ながら計画を作成している。毎月家族にも報告をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6か月に1度の介護計画の見直しを基本にしているが、介護計画書で対応できない変化が生じた場合や緊急の場合、職員の意見を参考に随時、介護計画の見直しをしている。また、見直しがあった場合は随時、家族や職員に伝えている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族が困った時の援助や、帰宅、外出の同行などの援助は入居者、家族の状況に応じ支援をしている。入院時における主治医との連携や、ホームからの訪問、居室の確保など柔軟な対応に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>隔週1回、かかりつけ医（内科）の訪問があり、また、眼科医の訪問もある。他の病院（専門医療機関）への通院を支援している。入居者によっては、数カ月に1度入居前のかかりつけ医に家族が付き添い受診しているが、受診内容など情報を申し送り帳に記入し、職員が把握できるようにしている。週1回の訪問看護があり、24時間対応可能である。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に家族と話し合い、「重度化した場合における対応に係わる指針」という書面で意向を確認している。医療機関、その他の施設と連携し、早くから家族と話し合いをしている。職員はこの指針を共有している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの保護は職員全員慎重に取り組んでいる。書類など個人情報の取り扱いにも職員への守秘義務を徹底している。また、日常生活の中でも、洗濯物を個人別にネットで洗濯し、紛失や間違いがないよう配慮している。トイレなどの声かけ、日常生活の会話の中でもプライバシーを損ねないよう徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースでできるだけ自由に過ごせるよう、朝の起床時間はそれぞれ異なる時間帯で起床している。お酒は職員と一緒に買い物に行き、飲酒も可能である。現在は喫煙する人はいないが、職員が見守る中であれば吸うことは可能である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、入居者の希望を聞き、メニューを作成している。また、入居者と職員が食材の買出しを一緒に行き、食事の準備、片付けなど、皆で楽しんで行なっている。大きなテーブルを一つにして入居者、職員と一緒に語らいながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日、水曜日、金曜日の午前中と一応決まっているが、夏場は毎日シャワー浴を支援している。入居者の意向に沿って入る時間など可能な限り支援している。お風呂好きな入居者が多いが、入浴を拒否する人に対しては、「いい温泉がありますよ」と、職員のチームプレーで入浴支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す、たたむなど男性も含め自然に入居者の役割となっている。1日1度のコーヒータムがあり、クリスマス会、誕生日会には飲酒の楽しみを支援している。また、寿司屋、ファミリーレストランなどの外食や、お花見には弁当とビールを持って出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけたりドライブなど、できるだけ支援している。スーパー、洋服屋、靴屋など買い物に行き、帰りに喫茶店や、公園などに立ち寄りたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしを認識した施設運営をしており、日中に玄関の鍵はかけず、夜9時過ぎに施錠している。1、2階のホールにチャイムはあるが普段は鍵をかけず支援している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の協力を得られるよう、防火防災計画書を作成して、消防署、町内会に提出している。避難訓練には入居者、職員が共に行い、近所や家族などにも参加、協力の呼びかけをしている。万が一のため非常用飲料、備品を1週間分備蓄している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>定期的に主治医の指導を仰ぎ水分量、食事の摂取量などを調整している。食事制限のある方には、味付けや量、盛り付けなどを工夫している。血液検査など、栄養バランスを考え献立に反映して、水分補給も利用者が自分で随時できるようにしている。また、職員が病院の指示により、本を購入し勉強している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日中はホールに集まりやすいよう、大きな食卓テーブルがあり、テレビを囲んでホットカーペットが敷かれ周りにソファが置いてある。季節が感じられる飾りつけがしてあり、落ち着いた雰囲気になっている。西側の大きな窓には、西日よけのすだれが置いてあり、温度調整にも役立っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には使い慣れた家具が配置され、仏壇も希望があれば置くことができる。壁には入居者の写真などが飾られている。また、希望によりベッドだけでなく、畳を敷き布団を使用している人もいる。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。